

2024 年度 自己点検・自己評価報告書



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門学校 **名古屋ビジネス・アカデミー**
(2024年4月 名古屋スクール・オブ・ビジネスより校名変更)

2025年6月20日作成

1 学校の教育目標

社会や経済の国際化・情報化が加速し、AI化やロボティクス化による第4次産業革命が急速に進んでいくなか、学生たちが時代の変化に対応し、業界で活躍する力をつけ、人生100年時代を生き抜く学校教育が強く求められています。

専門学校名古屋ビジネス・アカデミーは、ペット、愛玩動物看護、ビューティー、IT、マスコミ、経営・事務の6分野で活躍する人材を育成する6学科を設置して業界・企業との連携をもとに実践的な教育を行うとともに、「5つのプロフェッショナル力」「5つの人間関係力」を身につけるための学園独自のカリキュラムを加え、「希望する企業や業界に“就職”するだけでなく、就職した企業や業界で“活躍”する人材になるための“大学も専門学校も超える新たな学びの場”の創造」をめざしております。

職業実践専門課程認定校として業界企業さまとの連携強化に努め、業界企業さま方が求める「専門性と人間力を兼ね備えたバランスのいい人材」育成のため、カリキュラムの改善や教育イベントの充実を図ってまいりました。設立40周年を超える専修学校として、卒業生と在校生、入学予定者(A0生)の一人ひとりが、本校での2年(3年)の在籍により各業界で活躍できる人材に成長し、豊かで幸せな人生を歩んで素晴らしい人生を拓くこと、連携くださる企業さまに有用な人材を輩出することで業界の発展に寄与し地域社会の利益・幸せに貢献することが、本校の社会的役割であると考えております。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本学園で重点を置いている指標は、①学生募集 ②継続率 ③進路決定 の3点あります。日々の授業や実習、行事・イベント、日々の学生サポート、就職活動サポート等を通じて、在籍する学生たちの高い満足度を図り、それを実現する学校運営を徹底することで各学科・学校の価値を上げる。それが、ひいては次の学生募集と教育の充実につながっていくと考えております。

- ① 2024年度出願数は、入学定員に対して80.0%、学科によって充足度が異なる点が大きな課題であります
- ② 1年次から2年次への進級率は90.0%、昨年の振り返りを教職員で共有・改善し、昨年度より6ポイント改善しました。入学前からのメンタル要因等が増えている現状がありますが、日々の授業・実習や年間で実施するイベント等の満足度を上げ、担任をはじめとする学生サポート、保護者との連携等に注力することにより、学習意欲の低下や進路変更の検討等を防止し、業界就職&活躍へ学生1人ひとりがロードマップを描けることを推進します
- ③ 求職者に対する就職内定率100%(卒業生に対する求職率94.8%、内定者のうち業界内定率92.7%)で、11年連続100%を達成いたしました。キャリアコンサルタントによる毎週の「就職指導」と個別フォロー、1年次11月に実施する就職活動スタートアップイベント「業界EXPO」、専攻分野経験者である学科担任による個別面談・サポート、求人やインターンシップ先開拓ならびに求人情報システム「スタログ」などが奏功していると認識しています

本学園は、2023年度に田坂 広志氏を新しい理事長・学長に迎え、“大学も専門学校も超える新たな学びの場”を標榜し、具体的な施策に取り組んでまいりました。AI時代が進んでいくなか、人間力でしか発揮できない「5つのプロフェッショナル力」と「5つの人間関係力」を身につける「セブン・ステップ・カリキュラム」の枠組みのもと、「リフレクション（振り返り）」の導入、学園17校による「富士五湖サミット」「ロサンゼルス・サミット」「クロスオーバー・フライデー」「クロスオーバー・サミット」を実施。各学科では全国ビジネス・アカデミー4校共催の「ビジネスプランコンテスト（総合ビジネス学科）」「A-TECHコンテスト（ITビジネス学科）」「ビューティー接客プレゼンコンテスト（ビューティービジネス学科）」「トリミングコンテスト（ペットビジネス学科トリマーコース）」「しつけ相談ロールプレイングコンテスト（ペットビジネス学科ドッグトレーナーコース）」「ペット接客プレゼンコンテスト（ペットビジネス学科・愛玩動物看護学科）」等を軸に在校生が実力をつけるとともに、成長を実感するしゅみを整え、学生募集広報にも活かしております。

今後とも、在校生・卒業生の満足度を図り、学校と各学科の価値を上げ、それをわかりやすく募集広報することで、入学検討者や保護者、高校や地域のみなさまの支持を得ていきたいと考えております。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	3	2
2. 学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
4. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

学校の理念・育成人物像につきましては、『学生便覧』に明記し、新入生オリエンテーション、新入生合宿、新入生保護者会等で周知しております。

新入生保護者会は5月に対面で実施、出席率は64%でした。学校方針や年間スケジュール、学生・就職サポート体制、メンタルヘルスセミナーなどを実施、保護者と担任が顔合わせしたうえ連携の意義をお伝えし、アンケートでは一定の評価をいただきました。

学生が志望する業界企業さまや職業実践専門課程等で連携いただく企業さまとのパートナーシップのもと、業界で求められる人材について分析し、社会人基礎力を高める教育を引き続き重視しております。加えて、AIやロボティクスが加速度的に進む今後の社会においてビジネスで活躍できる力を、学校、学科、エリアを超えクロスオーバーするなかから身につける学園の「セブン・ステップ・カリキュラム」をおおいに活かし、本校学生たちが成長していけるよう進めてまいりました。

本学園・本校の教育理念・方針をふまえ、学校の教育環境を整備するとともに、今後も企業連携科目を中心に、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会で委員のみなさまよりご意見を頂戴し、職業実践専門課程認定校にふさわしい教育を推進してまいります。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
3. 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
4. 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
7. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
8. 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 8. について

学生一人ひとりの情報に関して、取得単位数・資格、出席状況は成績管理システムにて管理。学生への連絡周知、オンライン配信授業や一部の教育イベント（全国大会など）、学園横断の会議等につきましては、Microsoft Teams を活用。求人票や求人検索、就職活動内容をデータベース化した「スタログ for Recruit」、予算の執行時には学園稟議システム「業務デザイナー」、人事評価には「カオナビ」システムを運用しています。

ただし、卒業生の情報管理に関しては、卒業時にメールアドレスを登録する学園全体のしくみを整備中であり、今後の活用が課題であります。

② 今後の改善方策

設立 40 余年である本校の卒業生全員の情報管理につきましては、体系的に整備することが経年の課題であります。卒業時のメールアドレス登録のみならず、その後のメンテナンスを含めまして、学園の「ネクスト・ステージ・アカデミー」のしくみを活用できますよう検討していきます。

③ 特記事項

運営方針・事業計画につきましては、学園の方針・総意のもと、学校長と副校長、事務長、名古屋エリア事務局長、全国ビジネス・アカデミー教育本部4校で協議しながら進めております。

意思決定につきましては、理事会・拡大常任会議、協議機関として、全国ビジネス・アカデミー4校が所属するビジネス教育本部で、本部長のもと、ビジネス・アカデミー4校学校長・副校長がオンラインで協議するビジネス教育本部会議、名古屋エリアにある姉妹校4校の学校長・副校長・事務局長・事務長を中心とした名古屋エリア責任者会議があり、毎週実施しています。

学内では、教職員が参加する定例学務ミーティングと担任会をそれぞれ毎週実施、学校運営に関する情報や学生状況（継続/就職活動進捗等）を共有し、課題と取り組みについて組織的に協議、共有するようにしております。

教職員の人事、給与に関する諸規定につきましては、学園の就業規則に明記されております。加えて、各人が定量・定性にわたる目標を学校長と協議のうえ設定し、期末前に達成進捗や振り返りを職務要件や給与テーブルに照らし合わせて次年度の昇給に反映する制度を整備しています。

各種コンプライアンスに関しましては、教職員・講師に対して年度初めの講師会で啓発・周知、在校生に対しては期初オリエンテーションでとくに喫煙やSNSに関する禁止事項等について指導しています。学園では「コンプライアンス規程」を設け、弁護士および公認会計士をメンバーとするコンプライアンス委員会が設置され、業界や地域社会等に対してもコンプライアンス体制を整備しております。

情報公開に関しましては、学校のホームページで基本方針や学科の特徴・バリュー、カリキュラム、就職活動支援体制等を公開するとともに、職業実践専門課程認定校ならびに国の修学支援認定機関として、規定どおりの学校情報を公開しています。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
6. 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
8. 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
9. 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
13. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 1 2. について

期中に専任教員の退職があり、それに伴ってリーダー・副校長が担任を兼任せざるを得ない事態がありました。当該学科の学生たちが不利益を被らないよう、また、学科の非常勤講師との連携が疎かにならないようサポートに注力いたしました。

評価項目 1 3. 1 4. について

2024年度の教員研修につきましては、“年1回以上自主的に参加”を期初に周知いたしましたが、個人差が出てしまい、組織的・計画的に実施できたとは言えない結果となりました。学科運営、学生1人ひとりの授業出席状況管理や面談をはじめとする担任活動、授業・実習の組み立て・準備・実施、非常勤講師マネジメント、就職指導等に、学園横断の教育イベントや施策が新しく加わった1年でした。次年度改善してまいります。

② 今後の改善方策

学科担当が、教育課程編成委員会や連携企業さまと協議しながら設計したカリキュラムを有機的に機能させていくためには、1科目1科目を受け持つ教員（専任/非常勤講師）が科目の目的や趣旨、位置づけを理解し、学生の理解度やスキルアップを最大化できるよう熱意を持って授業を実施してもらうことが肝要だと考えております。そのマネジメントが学科担当の重要な職務である点は、周知しているところです。

職業実践専門課程認定校として、教職員の研修（専攻分野における実務に関する研修/指導力の修得・向上のための研修）は組織的・計画的に実施していかなければなりません。教職員が外部研修で幅を広げ、刺激を受けて成長することこそ、授業や学務業務の質を上げられると肝に銘じ、教職員たちが自主的に学ぶ姿勢を持てる環境をオンラインによる研修等含め、検討、整備してまいります。

③ 特記事項

カリキュラム、シラバス、資格検定取得計画と対策、学科運営に関する目標や計画については、年度ごとに学科担当が策定。「カリキュラム編成シート」を作成し、業界企業委員で構成される年2回の教育課程編成委員会でご意見をいただきながら実施しています。企業連携科目を含め、産学連携による教育イベントにつきまして各学科で実施するとともに、「業界 EXPO」「トリミングコンテスト全国大会」「全国ビジネスプランコンテスト」「A-TECH コンテスト全国大会」「オンライン留学プログラム」等全国ビジネス・アカデミー4校と協議、共催。学生たちが成長を実感し、成功体験を積めるきっかけとして実施いたしました。

本校では、全教員（専任/非常勤講師）が担当する全授業について、「授業計画書」を授業期の初めに提出。毎回の授業実施内容は「授業報告書」に記

入し、共有できるようにしております。また、授業期ごとに担当教員の総括・要望をとりまとめ、授業の質の向上や改善に努めています。加えて、受講する学生たちの授業評価として9月に「授業アンケート」を実施、結果については専任教員が共有し、現状の把握と授業内容・学校運営の改善に努めています。また、非常勤講師へのフィードバックを行い、改善を求めるとともに次年度継続可否の参考にしております。

年々変化していく「業界が求める人材」については、11月に実施いたしました「業界 EXPO」ご参画企業（2024年度実績80社）や学内会社説明会を開催くださる企業さまより直にお伺いするとともに、愛玩動物看護学科・ITビジネス学科（単位認定）、ペットビジネス学科を中心にインターンシップをお願いしている企業さま方から、参加学生についての率直な評価を学科担当や就職指導担当がお伺いし学内で共有、カリキュラムや教育イベント、ゼミなどに反映しています。

成績評価および単位認定、進級・卒業認定については、「学則」および「学生心得・細則」（学生全員に配布する『学生便覧』に明記）に則り、厳正に行っています。『学生便覧』は、新年度開始時のオリエンテーションで学生たちに周知するほか、保護者会でも配布し説明、保護者の方々へご理解を促しております。

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 就職率の向上がはかられているか	4	3	2
2. 資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
3. 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 2. について

資格検定につきましては、学科担任が担当講師と協議しながら、合格率を上げるべく努めております。合格率が全国平均を超えたものは、「サービス接客検定準1級ロールプレイング」、PC検定など。ITビジネス学科で取得する国家資格「基本情報技術者試験」につきましては、昨年度から大幅に改善し、全国平均レベルを超えました。一方で、「リテールマーケティング(販売士)」、「日商簿記検定」は、ホームルームやゼミで対策を強化し、昨年度より合格率を改善したものの、全国平均は下回る結果となりました。3年制となつてはじめて実施された国家資格「愛玩動物看護師」は、合格率92.3%でしたが全国平均は超えられない結果となりました。次年度は合格率地域NO.1をめざしてまいります。

評価項目 4. について

卒業生の活躍および卒業後のキャリア形成への効果の把握につきましては、卒業生の就職先企業さまからの情報や、学科担当との関係性による一部の卒業生の情報はあるものの限定されており、学校がこれまでの卒業生の現状について体系的にリサーチできていない状況です。学園の新しい取り組み「ネクスト・ステージ・アカデミー」で、卒業生のキャリアを生涯サポートするしくみと連携して進めてまいります。

② 今後の改善方策

本校卒業生の業界での活躍ならびにキャリア形成モデルこそが、学校評価の根幹でなければなりません。就職した企業で勤続して成長し、どのようなキャリアを積み重ねて評価を受けているか、卒業生の動向を経年的に把握していくことが必要です。卒業生1人ひとりの状況を組織としてどのように

把握し、卒業生情報を共有していくか、学園「ネクスト・ステージ・アカデミー」と合わせて検討してまいります。

学生が将来役に立つ資格、企業側からみて必要性の高い学生全員に受験させるべき資格は毎年精査し、受験時期を勘案し、対策授業を時間割に組み込んでおります。合格率が低い資格・検定につきましては、受験時期の見直し、講師と改善策を協議→ゼミの実施や講師の一部変更などし、合格率改善への具体的なアクションを実施するよう努めております。全国平均合格率を超えられないものにつきましては、抜本的な施策を打つ必要がありますが、学科に偏っている面があり、資格の取得目的を学生に周知し、理解させ、モチベーションマネジメントを各学科のホームルームなどで継続していく必要があります。改善すべき資格は学科担当と担当講師を交えて、検定ごとに改めて課題を洗い出し、具体的な改善を図っていきます。

③ 特記事項

2024年度で就職率（求職者に対する）100%を11年連続達成いたしました（卒業者に対する就職率94.8%、内定者のうち業界内定率92.7%）。1年次から毎週の「就職指導」授業、1年次11月「業界EXPO」、早期選考・学校推薦枠の獲得、インターンシップの促進、学内会社説明会の実施等学校としての枠組みを活かすとともに、学科担任と就職指導担当が連携して学生1人ひとりをねばり強くサポートしてきた結果だと考えております。

本校の1→2年生進級率は目標を90%としておりますが、当該年度は90.0%を達成いたしました。退学理由につきましては、不登校経験者が増加するなか、学校生活不適應（めざす分野への目標喪失）、メンタル事由、友人関係に加えて、単位が取れないなどがありました。

退学率の低減に関しましては、定期的な個人面談に加え、遅刻・欠席はきざしが表れる相関関係があるととらえ、担任が「欠席管理表」で学生1人ひとりの出席状況を把握。遅刻・欠席する場合は学生から担任に事前連絡することを義務づけております。また、出席点を成績に組み込み、単位認定の一環としております。非常勤講師からも授業での学生の変化や違和感があれば担任にフィードバックしてもらえるコミュニケーションを取ることを職務ととらえ、遅刻・欠席が重なった場合は担任から保護者へ連絡するフローを整え、徹底しております。

経済的な理由などのやむを得ない理由はともかく、「学習意欲の低下」といった理由はなくしていかなければなりません。入学検討時より自らがめざす業界でどのように働くかリアルにイメージすることや、A0プレスクール（入学前授業）の出席率を上げる施策を行い、入学後のギャップを埋め学習意欲を高めること、担任やクラスメイトとの関係性づくりが重要と考え取り組んでおります。遅刻欠席しがちな学生につきましては、週1回の担任ミーティングで理由・背景含めて共有、対応を学務室全体で協議するとともに、場合によってはリーダーや副校長が学生との面談にアテンドするようにしています。

学生の悩みについては、学園「なんでも相談室」のスクールカウンセラー（キャリアコンサルティング技能士/公認心理士）とも連携し、半期ごとにメンタルヘルスセミナーを実施。新入生保護者会で保護者向けにも実施し、ご理解と家庭との連携をお願いしています。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
4. 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
6. 学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
7. 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
8. 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
10. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
11. 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目8. について

「卒業生への支援体制」について、再就職相談等は依頼があれば担任や就職指導担当が個別で対応しています。学園で立ち上がっております卒業生支援「ネクスト・ステージ・アカデミー」を周知し、本校卒業生にとっても具体的な恩恵が受けられるよう進めたいと考えております。

評価項目9. について

「社会人のニーズを踏まえた教育環境」として特別に整備していることはありません。再進学を受け入れについては積極的に行っております。

評価項目10. について

地域の各高校から模擬授業や面接指導等の依頼があった際は、本校教員や広報職員が出向いて職業ガイダンスや講座を実施しておりますが、回数としては限られている現状があります。当該年度は、通信制高校さまよりキャリア教育の一環として模擬授業のご依頼を頂戴し、3分野について専任教員が授業を実施いたしました。

評価項目 1.1. について

卒業後に関しまして「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等」は実施していない現状です。

② 今後の改善方策

卒業生の支援に関しましては、学園で立ち上がっております卒業生支援「ネクスト・ステージ・アカデミー」を、創立以来 8,000 名以上を輩出してきた本校卒業生全体にとって恩恵があるよう周知いたします。メニューの 1 つである経営学修士 (MBA) 大学院進学コースにつきましては、卒業後 5 年以上の卒業生 300 名以上に案内を郵送いたしました。

高校との連携によりますキャリア教育・職業教育については、今後ご依頼に鋭意対応するとともに、本校からも積極的に業界模擬授業を働きかけていく方針であります。

③ 特記事項

進路・就職への支援体制につきまして、本校では取得単位外を含めまして就職活動サポートに非常に力を入れております。1 年次 11 月に開催する本校独自の就職イベント「業界 EXPO」を軸に、就職が内定するまで入学当初より週 1 回授業を実施。必要に応じて保護者とも連携し、学生 1 人ひとりに向けてサポートにあたっております。

学生の経済的な支援につきましては、入学前の A0 特待生制度 (特待生には学費減免)、授業料の分納、日本学生支援機構奨学金や修学支援新制度に関する周知、手続きサポートを徹底しております。日本学生支援機構奨学金は緊急申請についても臨機応変に対応しています。

日々の学生を支援する担任活動で共有すべき事例については、毎週の職員ミーティング/担任ミーティングで協議し、当該学生にとってよりよい対応に向けて意見を出し合い、場合によっては担任以外も面談にアテンドするなどしております。

学生の健康面支援は、定期健康診断を毎年実施しデータ化。生活環境等への支援につきましては、学生たちのメンタルほか全般を支援する「なんでも相談室」のスクールカウンセラーと集団守秘義務のもと連携、担任が保護者とも連携し、学生 1 人ひとりの状況把握と退学防止に努めています。

2024 年度の課外活動といたしましては、学生委員が中心となって企画し全員が参加する学園祭、スポーツ大会に加え、新入生ボウリング大会、姉妹校 4 校によるクロスオーバー・サミット、クロスオーバー・フライデーを実施、学科・学校を超えた交流を図りました。また、名古屋市獣医師会の外郭団体である名古屋市人とペットの共生サポートセンターが主催する「猫の譲渡会」「犬の譲渡会」に、栄という立地を活かして教室を会場として提供、学生と教員たちがボランティアスタッフとしてサポートいたしました。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
3. 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目 2. について

職業実践専門課程認定校として、各学科で学内での実践的な実習のための設備は相応の予算を取って毎年整備しております。

インターンシップに関しましては、IT ビジネス学科、愛玩動物看護学科で実施する単位認定制の連携企業とのインターンシップのほか、他学科につきましても1年次夏以降、就職活動につながるインターンシップへの積極的な参加を指導、促進をしています。

海外研修につきまして、アメリカロサンゼルスへの渡航を企画し、説明会まで行いましたが、円安の影響や燃料費の高騰で安価な価格設定ができず参加希望者が少なく、催行できませんでした。

評価項目 3. について

非常時における備品の確保や災害時の緊急対応への整備が充分ではないと認識しております。

避難訓練は、校舎ごとに2回に分けて実施いたしました。

② 今後の改善方策

海外研修につきましては、コロナ禍前まで実施していた希望者対象の海外研修を計画していく所存ですが、渡航先や日数変更等工夫して費用を下げ、学生が参加しやすい状況を創出し、催行できますよう努めてまいります。

学生たちのグローバルな視点を広げる点に関しましては、「オンライン留学プログラム」を年1回行っております。アメリカカリフォルニアにありま

す学園ロサンゼルス・アカデメイアと全国ビジネス・アカデミー4校をつなぎ、8コンテンツをインタラクティブな形で実施。講師プロフィールの事前

開示により事前学習ができる環境につきまして、昨年度より改善するよう進めました。

防災に関しましては、教職員全員が危機管理意識をより高め、避難訓練を実施するのみならず、非常時備品の課題につきましては、総合事務局と学園名古屋姉妹校と協議していかなければなりません。

③ 特記事項

施設・設備に関しましては、安全・快適な環境でより効果的な授業が実施できるよう毎年度設備計画を作成し、校舎や実習室・設備の改修を行い、安全性・利便性・清潔感の向上に努めております。2024年度につきましては、建物維持関連といたしまして①教室照明 LED 化（第2期） ②トリミング実習等壁面改修 ③トイレ洋式化 ④屋外非常階段補強、安全対策といたしまして⑤消防設備整備 ⑥防犯カメラ更新・増設、授業環境整備といたしまして⑦2号館3階大教室改装・設備更新 ⑧ペットビジネス学科・愛玩動物看護学科実習備品追加・更新 ⑨PC実習用PC入れ替えを計画し、執行いたしました。

各施設・設備につきましては、平面図や備品台帳、教室稼働表など書類・データで管理しております。業界企業とのパートナーシップのもと、分野に即した実践的実習授業を校内で実施できる環境整備にこれからも努め、学生の意欲を引き出し、スキルを向上させ、成長へとつなげてまいります。

非常時の避難経路等は、避難訓練の実施とともに、常勤教職員のみならず、非常勤講師、クラス単位で周知しております。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	3	2
2. 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
3. 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確につたえられているか	4	3	2	1
4. 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

本校は、一般社団法人愛知県専修学校各種学校連合会の会員として、募集活動に関わる諸規則を尊重し、適切な募集活動に努めております。学生募集活動につきましては、高校や設置会場でのガイダンスに広報職員が出向き、年間数百人の高校生ならびに高校の先生方に本校や業界について情報提供しております。一人でも多くの入学検討者にオープンキャンパスに来校してもらい、各学科の概要や就職状況やサポート体制、資格取得状況、企業と連携した実践的な授業内容、設備、OB・OGの活躍などについてご説明し、模擬授業を通して学科担当や先輩在校生と接し、学校学科について充分理解してもらったうえで出願、入学してもらう方針としております。入学者の約9割が利用するA0入学制度におきましては、募集活動と教育のシームレス化を実現すべく、「A02.5教育プログラム」というコンセプトのもと、A0プレスクール（入学前授業）として計9回を実施。専門分野の学習へスムーズな移行と入学後のモチベーションアップ、将来のクラスメイトとの交流を目的としております。

本校の入学資格は、高等学校卒業資格を前提としたうえで、過去の学業成績よりも学ぶ意欲や目的意識を選考基準として重視しており、これから新しい分野に挑戦する初心者に対して入学の門戸を大きく開いています。本校の教職員は、募集活動を「入学検討者に対する進路サポート」と心得ており、①印刷物・webサイト・SNS・高校ガイダンス等を通じた、有用かつ新鮮な情報の提供 ②おもにオープンキャンパスでの模擬授業を通じた技術・知識の提供、入学相談 ③入学検討者の疑問や不安を解消するための電話やLINE等を通じたカウンセリング を行っています。遠方等で来校しづらい方には、無料送迎バスの運行やオンラインでの入学相談などにも対応しております。

学納金は名古屋地区の同業他校と比較して妥当であり、提供するカリキュラムや教育環境・設備の質、社会人基礎力の向上のための授業の配置や、全国17校連携する学園全体やビジネス・アカデミー教育本部4校、名古屋姉妹校で共催する教育イベントの充実など、学納金に見合った価値を提供していると考えております。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

1. 財務管理

学生納付金は帰属収入の90%以上を占める最大の財源ですが、多様な学生ニーズに応えるべく教育内容の充実を図り学生数確保に努めるとともに、学科・コース構成の再構築、業界企業さまとの連携、施設設備の充実等、財源を効率かつ最大限に活かせるように努めております。

学校運営に関わる予算につきましては、各校・各学科にて年度予算を編成。具体的な各費目の大枠について、あらかじめ検討・承認された予算費目に基づき、備品購入や施設設備の充実・改修などに対する相当額を各校で予算化し、学園本部会議にて最終検討のうえで概算予算を決定しております。

継続的な教育の遂行には、確固たる財務基盤の確立が必須条件であります。学生募集に力を尽くすと同時に、無駄な経費の削減に努めてまいります。

予算執行につきましては、学園の経理規程・予算管理規程に従い承認された予算各費目の枠内で、執行担当者が稟議書・発注申請書を起票し、事務長、副校長、学校長、名古屋事務局長、教育本部事務局長、また金額により学園本部の承認を受けて執行しております。予算と実績の差異は教務事務が毎月確認し、予算実績管理の精度向上に努めています。

2. 会計監査と情報公開

私立学校法の規定に基づき、学園法人本部の所管で監事により業務・財産状況の監査が行われており、会計年度終了後2か月以内に理事会及び評議委員会で決議を受けています。また、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じております。

財務諸表につきましては、学園のホームページで公開するとともに、国の修学支援制度/給付型奨学金の要件を満たす機関として適切な財務基盤を有する点を踏まえまして情報公開しております。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

1. 法令・設置基準等の遵守

本校では、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っております。また、教職員・講師に対しては、年度初めの講師会で各種コンプライアンスに関する啓発を実施しています。在校生に関しては、毎年度初めのオリエンテーションにおいて『学生便覧』を配布、法令遵守に関しましてはとくに喫煙やSNSに関する禁止事項等について指導しています。

法令遵守および業務の適正な執行等の徹底を図ることを目的とし、学園では「コンプライアンス規程」を設け、弁護士および公認会計士をメンバーとするコンプライアンス委員会が設置されています。通報窓口が周知され、学園として法令違反に関する情報を的確に収集するとともに、専門家の知見を踏まえた対応をとる体制としております。また、責任者対象のハラスメント講習会を年1回実施しています。

個人情報保護につきましては、学校法人全体として各種情報の保護を図っています。「個人情報保護法に関する教職員規定内規」を定め、個人、部署ごとに情報の漏えいがないよう取り組んでおります。また、講師会において非常勤講師にも注意喚起を行い、個人情報の保護に努めております。

2. 自己点検・自己評価

本校では運営・教育改善に役立てることを目的に、文部科学省のガイドラインに沿った自己点検・自己評価（本報告書）を今後も継続して実施してまいります。定期的に自己点検を行うことで発見や気づきにつなげるとともに、継続的に自己評価がレベルアップしていくよう努めます。一環として「学生アンケート」（授業評価や学生生活に関する項目を含む）を、全授業科目対象に年1回実施。学校長、副校長、各学科担当が分析・共有を行い、学校運営に反映するとともに、非常勤講師に適切なフィードバックをすることでそれぞれの授業科目の質を担保、改善に役立てております。学生生活に関する学生たちからのコメントは精査し、施設・設備の快適性・利便性など、学生満足度の向上のため設備計画等に反映しています。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
2. 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目3.について

地域に対する公開講座や教育訓練等の受託については、社団法人日本ペットマッサージ協会や社団法人日本メディカルアロマセラピー協会検定、名古屋市の外郭団体主催「猫の譲渡会」「犬の譲渡会」、ペットビジネス企業主催トリマー向けセミナー等の会場として教室や実習室を提供しておりますが、地域に対する公開講座等の受託は行っておらず、積極的に実施しているとは言えない状況と言えます。

② 今後の改善方策

学校の施設を活用した地域貢献につきまして、中部圏の中心である名古屋栄に立地する本校のメリットを活かし、地域に対する公開講座への会場提供等を機会があれば積極的に検討していきます。

③ 特記事項

当該年度は、名古屋市人とペットの共生サポートセンター主催、譲渡ボランティアによる「猫の譲渡会」「犬の譲渡会」に会場を提供し、学生と教員がボランティアスタッフとしてサポートいたしました。今後も、立地の利便性を生かした社会貢献・地域貢献を機会があれば前向きに検討し、学生たちが自発的にボランティア活動を自主的に行える機会を提供していきます。また、学園祭やクロスオーバー・サミットなど一般に公開するイベントに関しましては、保護者のみならず地域のみなさまに來校いただけますよう早めから計画し、学園が掲げる「5つのプロフェッショナル力」「5つの人間関係力」が身につく実感のあるカリキュラムとして磨きあげると同時に、社会・地域からの評価を頂戴できますよう進めてまいります。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
4. 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

① 課題

評価項目1. について

2025年度は、留学生クラスである総合ビジネス学科グローバルビジネスコースを2021年度以来4年ぶりに設置いたしました。次年度はより戦略的に留学生の受け入れを進めてまいります。2024年度入学した2名の留学生は全員進級しております。

② 今後の改善方策

入学前、入学後の学生ビザ確認・更新に際しては、適切に手続きが進められるよう事務長中心に対応し、名古屋出入国在留管理局より「適正校」と選定されています。

2024年度2年に進級した留学生4名は、東証プライム上場企業や国内IT企業等、全員が国内への就職を果たしました。

留学生につきましては、学習意欲や国内就職意欲の高い者を受け入れるという体制としており、2025年度は8名の入学を受け入れております。職業教育機関である専門学校として留学生の受け入れに果たす役割は大きいと認識し、次年度につきましても意識の高い留学生を積極的に受け入れ、進級、資格取得、国内就職をめざしてもらえるよう進めてまいります。